

プレスリリース

あそびのつくりかた

2014 年 3 月 1 日（土）—6 月 1 日（日）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



河井美咲《Doggy Dog》2011 年、Malmö Konsthall での展示風景、Courtesy of the artist and Malmö Konsthall, Sweden

出品作家：

梅田哲也 | Tetsuya Umeda

小沢剛 | Tsuyoshi Ozawa

河井美咲 | Misaki Kawai

クワクボリョウタ | Ryota Kuwakubo

お問い合わせ及び資料のご請求先：

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/公益財団法人ミモカ美術振興財団 | 担当学芸員＝国枝かつら
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1 | tel. 0877-24-7755 fax. 0877-24-7766 | <http://mimoca.org>

*当館公式サイト内「プレス向け情報」(<http://mimoca.org/ja/press/>)に画像をご用意しております。

【展覧会概要】

展覧会名：あそびのつくりかた

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

会期：2014 年 3 月 1 日（土）－6 月 1 日（日） 会期中無休

開館時間：10:00－18:00（入館は 17:30 まで）

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

協賛：株式会社資生堂

協力：株式会社ジェディック、豊浜綿寝具協同組合

観覧料：一般 950 円 [760 円] 大学生 650 円 [520 円]（常設展観覧料含む）

* [] 内は前売り及び 20 名以上の団体料金

高校生以下または 18 歳未満・丸亀市内に在住の 65 歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

* 前売券販売場所

[丸亀] あーとらんどギャラリー（0877-24-0927）、オークラホテル丸亀（23-2222）、おみやげ SHOP
ミュー（22-2400） きままや（22-9361）

【展覧会趣旨】

あそぶ、とはどんなことでしょうか。現代の行き届いたサービスによって、人は日常に起こるかもしれないちょっとした困難を、比較的簡単に回避できるようになりました。楽しいことでさえ、自分で探す間もなく、あらかじめ用意されて身の周りにあふれています。市場化されたあそびに取り囲まれるなかで、私たちは与えられ続けることの閉塞感から抜け出し、さまよいながらも困難を解決したり、楽しさを発見する方法を見つけていかなければならないのかもしれませんが。あそびが「精神の技術」*と称されることがあるように、人の心が崩れそうになっても立ち直り、いきいきと生きる感覚を取り戻す技術がそこには備わっているように思えます。退屈にみえた物事や困難までもが、私たちの行為や工夫によって豊かなあそびへと姿を変えていくとしたら。それは思考のレッスンであり、精神の技術であるのでしょうか。現代美術で心も身体もときほぐし、ワクワクすること。そこには精神の技術につながるヒントがたくさん詰まっています。

* 山口昌男『『遊び』の本来の姿』（『笑いと逸脱』筑摩書房、1984 年）

出品作家：梅田哲也 | Tetsuya Umeda

小沢剛 | Tsuyoshi Ozawa

河井美咲 | Misaki Kawai

クワクボリョウタ | Ryota Kuwakubo

【みどころ】

1. あそびへのアプローチ

「あそび」には様々な意味があります。本展では、人がいきいきと生きる感覚を取り戻す「精神の技術」としてのあそびの力に注目します。作品は遊具ではなく、あそびという柔軟な心を導く媒体となります。

2. 現代美術をもっと身近に

体験型のインスタレーションや、私たちの身近にある素材で作品の多くが制作されています。例えば、小沢剛の《あなたが誰かを好きなように、誰もが誰かを好き》では、「ふとん山」を子ども達が登ったり、滑り降りたり、身体をめいっぱい使って作品を体感できます。

3. ワークショップやパフォーマンスが盛りだくさん

会期中、参加作家によるワークショップやパフォーマンスが開催されます。実際に手や体を動かしたり、作家と話をしながら作品をより深く知り、アイデアを持ちかえてください。

【関連プログラム】（一部変更の場合があります）

3月1日（土）、2日（日） 10:00-14:00 河井美咲ワークショップ 「モジャモジャ～けむく

じゃら隊！」

布やビニール・毛糸や紐を使って、“けむくじゃらコスチューム”を自由につくりましょう。できあがったらさっそく身につけて、みんなで《けむくじゃら隊》に仲間入り！あったかココアもご用意しています。

場所：1階ゲートプラザ（雨天時2階造形スタジオ）

参加料：100円（税・ホットココア込み）

事前申込不要。子どもから大人まで、当日どなたでもご参加いただけます。

3月1日（土） 14:00- 祖父江慎トーク 「うまくいかないをあそぶ」（仮）

本展印刷物や会場サインを手掛けたアートディレクターの祖父江慎さんが、「うまくいかないをあそぶ」秘訣をお伝えします。

場所：2階ミュージアムホール

定員：170名（先着順）

参加料：無料

3月22日（土） 小沢剛ワークショップ 「ふくろの国へようこそ、ふとんの山へようこそ」（仮）

展示室内のふとん山を舞台に、紙袋を着たり履いたり被ったりして、ふくろ族になってみましょう。小沢さんと一緒に、想像力をふくらませて楽しめるワークショップです。子どもから大人まで参加できます。

* 詳細は後日当館ホームページにてお知らせいたします。

4月5日（土） クワクボリョウタワークショップ 「ピッカリ電車で影の旅」（仮）

作品に使われているLEDを乗せたピッカリ電車を走らせて、いろんなものの影を映してみましょう。いつも見慣れている身近なものの影がつくりだす、発見がいっぱいの世界へ旅に出てみませんか？

* 詳細は後日当館ホームページにてお知らせいたします。

5月31日（土）、6月1日（日） 梅田哲也パフォーマンス

* 詳細は後日当館ホームページにてお知らせいたします。

会期中の日曜日 14:00-（6月1日は除きます） キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（国枝かつら）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込不要（1 階受付前にお集まりください）

【出品作家・作品紹介】

小沢剛 | Tsuyoshi Ozawa

1965 東京都生まれ

1991 東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了

2012 年より、東京藝術大学先端芸術表現科准教授

現在、埼玉在住。

【主な個展】

2012 「小沢剛：あなたが誰かを好きのように、
誰もが誰かを好き」 豊田市美術館（愛知）、
福島県立美術館

2009 「小沢剛：透明ランナーは走りつづける」
広島市現代美術館

2004 「同時に答えろ Yes と No!」 森美術館（東京）



《あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き》2012 年、豊田市美術館での展示風景、撮影：青木兼治

社会性のある主題をユーモラスな手法で表現してきた小沢剛。《あなたが誰かを好きのように、誰もが誰かを好き》（2006-）では、子どもが巨大な布団の山を登ったり滑ったりと体を動かしながら作品を体感できます。これまで、ブリスベン（オーストラリア）、バンコク（タイ）、東京、広島、名古屋、福島へと巡回してきました。子どもたちは「好きな人の絵」を描いてふとん山の頂上にあるポストに投函します。この絵は、丸亀での展示が終わった後、次の巡回先の子どもの手に渡っていきます。

クワクポリョウタ | Ryota Kuwakubo

1971 栃木県生まれ

2001 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー

マルチメディアスタジオ科専修学校専門課程卒業

2013 年より、情報科学芸術大学院大学准教授

現在、東京及び大垣在住。

【主な個展】

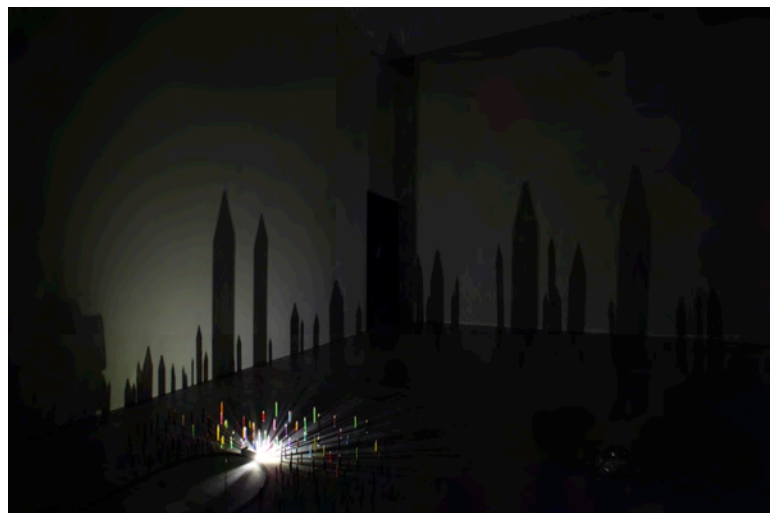
2012 「ひかり・くかん じっけんしつ」

NTT インターコミュニケーション・センター
[ICC]（東京）

*perfektron（クワクポリョウタ+山口レイコ）
名義での発表

2009 「微笑みトランジスタ」日本科学未来館（東京）

2005 「R/V」山口情報芸術センター [YCAM]（山口）



《10 番目の感傷(点・線・面)》2010 年、撮影：木奥恵三、写真提供：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

子どもの頃の影絵遊びを彷彿とさせる作品《10番目の感傷(点・線・面)》(2010-)は、物理現象としての影を使って、部屋全体に流れゆく風景をつくり出す作品です。暗室の中を、先頭に LED ライトを付けた鉄道模型が、洗濯バサミや箆など日用品の間を縫うようにゆっくりと走ります。壁や天井に映し出されるシルエットが動いて行く様は、CG など映

像技術が発達した今もなお、アナログでありながら新鮮な感覚を見る者に呼び起こし、深く引き込まれてゆきます。

梅田 哲也 | Tetsuya Umeda

1980 熊本県生まれ

現在、大阪在住

【主な個展】

2013 「ホテルニュー恐山」オオタファインアーツ
(シンガポール)

2011 「小さなものが大きくみえる」新・福寿荘(大阪)
「大きなことを小さくみせる」神戸アートビレッジセンター

2008 「Project TUBE5 Series Electrical Behavior」
せんだいメディアテーク(宮城)
「クリテリウム 73 梅田哲也」水戸美術館(茨城)



*【参考画像】オオタファインアーツ(シンガポール)での展示風景、2013年、撮影:Wong

Jin Wei

日用品や家電を改造した装置と自然現象を組み合わせるインスタレーションを制作しています。子どもの遊び道具のような「ローテク装置」は、日々の生活に置かれている見慣れた物が持つ機能とは別の、驚きと発見に満ちた聴覚および視覚的効果をもたらすでしょう。

河井 美咲 | Misaki Kawai

1978 大阪府生まれ

1998 京都芸術短期大学ビジュアルデザイン科卒業

現在、ニューヨーク在住

【主な個展】

2012 「Mt. Pom Pom」Children's Museum of the Arts
(ニューヨーク)

2011 「Big Bubble」Malmö Konsthall(スウェーデン)

2010 「Project N43」東京オペラシティアートギャラリー

2003 「Octopus Pier」P.S.1 Contemporary Art Center
(ニューヨーク)



《けむくじやら隊》2011年、Children's Museum of the Artsでの展示風景
Courtesy of the Artist and Justin Waldron

河井美咲は、らくがき、ままごとといった子どもの頃のあそびをそのまま巨大化させたようなユーモア溢れる体験型のインスタレーションを数多く制作しています。コームで巨大なピンクの犬の毛をとく《Arty》をはじめ、実際に着用できるカラフルな着ぐるみ《けむくじやら隊》と、新作を展示予定です。